

令和5年度 学校評価〔年度末評価〕（関係者評価記入用紙）

寿都町立寿都小学校

点数：最高4点、最低1点、基準点2.5点

自己評価基準・・・A:4～3.2 B:3.2～2.5 C:2.5～(ただし～3.2以上でも2点台以下が項目内に入っていればB)

()・・・中間評価

目標項目	アンケート項目	教職員	児童	保護者	自己評価	各項目に関わる状況・改善点など		学校関係者		学校関係者評価委員から	
						学校から	学校関係者	自己評価の適切さ	改善策の適切さ		
重点目標について	1 子供が自分の目標に向かって挑戦する姿が見られた。	3.9 (3.7)	3.6 (3.7)	3.3 (3.3)	A (A)		年間を通して挑戦という言葉が常に学校のキーワードになっていて、各活動での方向性が明確になっていました。子どもたちの主体性を育むうえで教職員間だけでなく子供たちにも意識が浸透しています。この営みを保護者にも発信していきます。				
協働的な学びの充実・実践	2 課題解決の意欲を高めるために導入を工夫したり、単元計画を作成したりすることで、子供が見通しを持って主体的に学ぶ姿が見られた。	3.8 (3.5)	3.6 (3.6)	3.6 (3.6)	3 (3.1)	3 (3.1)	A (A)	全学年で、子ども達の意欲を高め、主体的に学ぶ力を高めることができました。特に、単元計画を活用しての学びでは、子ども達が見通しを持って学習に取り組む、今まで以上に授業に夢中になっていました。今後も、取り組みの継続・改善を進めていきます。			
	3 全体交流の進め方を工夫することで、子供が協働的に学ぶ姿が見られた。	3.5 (3.4)						子ども達同士での交流を通して、考えを明確にしたり、新しい考えに気付いたりすることができました。今後は、より具体的な子ども像を全校で共有しながら進めていきます。			
	4 家庭学習への取組を工夫して行い、家庭での学習習慣が定着した。	3.5 (3.3)		3.2 (3.4)		3.1 (3.1)		3年生以上の自主学習の取り組みが習慣化されてきており、各種学力調査やアンケート調査においても、学力の向上・学習習慣の定着が見られます。今後は、さらに質の高い学習を進めていけるように、子ども達に様々な選択肢を伝えたり、アドバイスをしたりしながら、個別最適で深い学びにつなげていきます。			
	5 「がんばりタイム」や「朝学習」でICTや個別のプリントなどを活用するなど、子供が「個別最適な学び」を見つけ、学習する姿が見られた。	3.2 (3.3)	3.46 (3.4)	3.2 (3.4)		2.95 (3)	B (B)	ICTのソフトを活用しての、個別最適な学習や、個別の課題に合わせた学習の時間を設定することで、子ども達の主体性を育むことができました。今後は、タブレット端末の持ち帰りや、個別最適な学びの様子の発信などを通して、子ども達の学習の様子をより多くの保護者にも発信していきたい、そのよさを知ってもらえるようにします。			
	6 ICT機器の使用方法について研修を行うなどして、ICTを活用した教育活動の充実を図った。	3.7 (3.6)				2.8 (2.9)		新しいICTの活用方法を研修したり、教員間で共有したりすることを通して、より多くの場面でICTの活用ができました。今後は、子ども達にとって効果的なICTの活用場面に関する研修を充実させていきます。			
	7 支援が必要とされる児童の実態について交流・検討し、支援体制を整備するなど、個別の支援の充実を図った。	3.5 (3.5)					A (A)	生徒指導委員会や児童交流等で支援の在り方の検討・共有をすることができました。今後、学習面において児童の具体的な困り感の共有に努めていきたいと考えます。			
	8 児童会での主体的な活動を通して、他者の視点に立って考え行動するなど、子供同士でお互いに認め合う人間関係づくりができた。	3.6 (3.5)		3.6 (3.7)				委員会の進行の仕方や、事前の打ち合わせなどは児童から進んで行う機会が増えていることから、方法が定着しつつあるのかと考えます。しかし、目標に対しての各委員会の特別な活動に関して、準備日数や準備時間に対して、実施が難しい計画を立ててしまうことや、目的が不明確な活動があるため、教師主体で方向性を修正する必要があります。			
豊かな心の育成	9 子供が読書への意欲を高め、読書習慣が定着した。	3.1 (2.8)	3.1 (3.1)	3.23 (3.45)	2.4 (2.9)	2.8 (3.1)	B (B)	図書委員会を中心に、児童が興味関心を持つことができる図書の選書に力を入れることができました。また、低学年の朝の読み聞かせの他にも、CSさんによる高学年へのブックトークを1回ずつ実施することで読書への関心を高める活動ができました。しかし、読書の定着には家庭環境や個人の趣向も影響しており、大きな変化は見られませんでした。学校図書を借りる機会を工夫して設定し、児童の読書を推進していきます。			
	10 丁寧な教育相談や健康相談を行い、児童理解を深め、子供に寄り添うことで、子供が安心して学校生活を送る姿が見られた。	3.9 (3.7)						来年度も同様に、多角的な相談活動を通して児童理解を深め、困った時に相談できる安心な学校であれるよう、丁寧にやっていきます。健康相談実施の際は、教育相談や保護者面談の時期を考慮します。			
	11 学級・学校行事等で、子供が主体的に活動できる場を設定し、達成感を味わわせることで、子供の自己肯定感が高まった。	3.9 (3.9)		3 (3.2)		3.2 (3.3)		職員間で行事ごとの目標の共通理解が図られたことで、各学級ですれのない指導ができました。次年度も、児童が主体的に行動できるように、目指す子ども像を明確に提示していきます。			
	12 地域のよさや文化を知ったり、キャリア教育へつながったりする体験学習を通して、子供の豊かな心が育った。	3.9 (3.7)		3.8 (3.8)		3.3 (3.4)	A (A)	CS・地域の方々とは協力しながら、充実した体験活動を行うことができました。また、小中高での連携を通して、「キャリア教育」に関する新たな取り組みも来年度から始める予定となっています。			

健やかな体の育成	成長や学びを支える生活習慣の確立	心と体の健康の理解と、変容の見える化	13	マラソンカードや縄跳びカードを工夫したり、目標や到達度の見える化を図ったりするなど、子供の体力向上が図られた。	3.5 (3.4)		3.5 (3.5)		3.2 (3.4)		体力テストの結果から、全校的な傾向として走力に課題があるため、次年度もマラソンカード、縄跳びカードについては継続して使用し、児童の体力向上を図っていきます。					
			14	食育や熱中症予防、健康相談等の取組を通して、子供が自ら健康に関心をもち、生活習慣を改善しようとしていた。	3.6 (3.6)	3.55 (3.5)	3.4 (3.2)	3.45 (3.35)	3.1 (3)	3.15 (3.25)	A (A)	給食指導や給食メモを通して、子どもたちの食への興味関心を高める取組を進めてきました。興味関心から望ましい食習慣の取組につながるよう、興味関心を高めるだけではなく、自分の食事を振り返る機会を取り入れていきたいと思えます。				
			15	地域と連携した避難訓練や防犯教室、交通安全教室などを実施し、子供が自分事として捉える安全・防災教育に取り組んだ。	3.8 (3.8)					3 (3)		A (A)	関係機関と連携を取りながら計画・実施することができました。防犯教室や防災学校は、実施時期だけでなく、児童や地域の実態に応じて内容を見直し、避難の仕方について教職員で理解を深めることができました。来年度は、更に児童の安全意識を高められるよう、避難訓練の実施回数や時期について計画していきます。			
			16	子供のレジリエンス（失敗から立ち直る力、回復力）の向上が見られた。	3.2 (3)							B (B)	事例による職員への研修は実施できずに終わってしまいました。来年度も、児童の実態に合わせて可能な手立てを模索します。			
信頼される学校づくり	温かく活る組織づくりの確立	「効率+効果」を図る組織マネジメント キャリアアップのための Create & Change	17	教師力・授業力を高めるために、日常の授業実践に生かす研修の充実を図った。	3.9 (3.7)							職員室での情報共有や、蓄積されたデータなどを通して、様々な場面で授業力の向上・日常実践に関する研修を行うことができました。日々の授業につながる「持続可能な研修」を意識し、教員同士で切磋琢磨していくことができました。今後は、子ども達の主体性を大切にしながら、どのように学力の向上を目指すのかを考え、全教員で目指す児童像を共有しながら、同じ方向を目指して、研修を進めていきます。				
			18	各種通信やホームページ等により、情報を進んで発信し、保護者やCSときめ細やかに情報を共有することができた。	3.7 (3.7)	3.8 (3.6)			3.3 (3.5)	3.35 (3.5)		A (A)	学級通信は、写真なども盛り込み、子供たちの様子をわかりやすく伝えるよう努めています。HPやブログでの発信も定期的に行っています。学校のねらいや思いが伝わり、保護者はじめより多くの地域の方々に見ていただけるようにこれからも発信力を高めていきます。			
			19	学校は、地域や学校運営協議会と連携・協働しながら学校を運営している。					3.4 (3.5)				地域の方々から応援したくなる学校、子供たちは地域へ活力や元気、笑顔を届けられるような取組を進めてきました。双方向の連携でお互いが活気ある地域を創っていくという新たなステージへ移行していきます。			
			20	「効率+効果」的な業務改善を図り、組織的な働き方改革を促進した。	3.8 (3.4)								働き方の変革期であることを肯定的に捉え、自校でできること、また、関係機関との連携・協力を高め、ポイントを絞って効果的な改善策に取り組んでいきます。			